



門 七武  
番 986  
卷 64



物入事の巻下六

瓶前脱出

香月啓益纂輯

世産後調護の流

○物入事方凡物入産（世産）かろう自と因て呼（世産）  
須申入りて拵（世産）の呼（世産）せしはあらしひ御（世産）神（世産）と  
一側外と一うは膝（世産）とをのらよらう一ひら  
く世産（世産）うは足とのらうことあられとてりるこ  
一物入産（世産）かろう胞（世産）衣（世産）りりて小（世産）事（世産）時（世産）辰（世産）経（世産）  
と終て拵（世産）の世（世産）一呼（世産）せし一じ一（世産）一（世産）世（世産）産（世産）の  
安（世産）神（世産）教（世産）一七とのらて呼（世産）早（世産）より拵（世産）のよる

より呼び目とやら膝足とやらぬ神とよりの  
め安靜とて保身とて一けとれと膚よとて  
そつと帯とてし一け帯の志ありゆめとて血  
暈一或程とて変化とてろのめ一老練の  
波女とて帯の婦人ともりおほえたるるれ  
と心と付一あまうつとておひれとてくえ  
帯の流りとてしとておめとて一帯とて先  
て指とてろりよとて指ひつとておめとて  
あり初まを月を帯とておめとて一帯とて  
めろろとて賊風よとてろり余財のりよとて  
くおとてしとて

○産瘵のちと産婦とらるる分塊のりめとて  
のめ補進或は硬炭或は小圓石とておとて  
糸精の巾よとて一へとて房中とてとて一或は  
精と産婦の鼻よとておとてり或は舊徳器とて  
根とてめとて付とて産婦と鼻とてとて血暈とてとて  
とてつとて朝とてとてははとて産婦のちとて  
ろとて帯とてとてとてりも帯とてとて収斂とて  
ろとてとておとてのちとてとて産婦と鼻と  
の付と鼻とてけとて耗散とてとて帯とてとてとて  
あつとてろりおとてとてとてとてとてとてとて  
のちとてとてとてとてとてとてとてとてとて



そとくちを投起し或は持締の坐外せしめ都  
 してんぞくを胸より持締して腋下よりさす  
 ねたなれは汗濁の餘血さらさらりて血濁さ  
 るとこれかへりていささか白みれた血軍血  
 逆の痛もいささかいらりては法を用いしは産母  
 へのあついでいささかゆるりて持締さすといは  
 かもゆるりて産婦の腹よりあついでゆるり  
 性質さついでゆるりてあついでゆるりてゆるり  
 ちりては法をさすといは  
 産母のあついでゆるりては法を用いしは産母  
 射入れしは法をさすといは  
 外産持締の法は子固

持締のあついでゆるりては法を用いしは産母  
 脱して肉膚よりあついでゆるりてゆるりてゆるり  
 ゆるりて夏月を熱の時そのゆるりてゆるりてゆるり  
 夏月の産婦熱のあついでゆるりてゆるりてゆるり  
 固産のゆるりてゆるりてゆるりてゆるりてゆるり  
 肩とわさなと脱さすといは夏月の産婦熱のあついで  
 ちりてゆるりてゆるりてゆるりてゆるりてゆるり  
 上逆してゆるりてゆるりてゆるりてゆるりてゆるり  
 ゆるりてゆるりてゆるりてゆるりてゆるりてゆるり  
 婦人産母のゆるりてゆるりてゆるりてゆるりてゆるり  
 ゆるりてゆるりてゆるりてゆるりてゆるりてゆるり

僧の言はるるに... 今世の世に... 終つて... 若し... 今世の世に... 終つて... 若し... 今世の世に... 終つて... 若し...

今世の世に... 終つて... 若し... 今世の世に... 終つて... 若し... 今世の世に... 終つて... 若し...

終るはついで

○産後の方の婦人産後のついでして睡るはついでに必  
時これよ醒むはついでにこれ妙法なりといふはついで  
産婦の手血脱し精神形跡をよみ候はれ産  
後よめはついでに好んで眠るはついでにこれと相よ別  
らう者生るはついでに替睡として産後の心よ任せし眠  
らうしついでにさういふありありといふはついでにえ  
とありくあり精神形跡をよみ候はれ産  
らうとついでにのほく眠るはついでに救ふはついでに  
終るはついでに公と付ておはれ候はれ候はれ候はれ  
ついでに候はれ候はれ候はれ候はれ候はれ候はれ候はれ  
ついでに候はれ候はれ候はれ候はれ候はれ候はれ候はれ







らうそくへいも 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
どうも産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
えんき 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
の 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
つ 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
う 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
一 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
つ 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
屏風 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
つ 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
拵 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛

一 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
○ 婦人 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
血 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
治 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
お 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
の 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛  
て 産後 腹痛 産後 腹痛 産後 腹痛

傳り病と生ひつゝもの必津流の輝或ハ一處の内  
しそと産物とありしものいふ人々付添て夜  
何と一人おのゝうして産物と儲てし

○婦人産後一かたりて後橋橋よまよ一膝と堅足と  
屈て伸るは様よ外とゆと禁とらるりし産後  
一七日の間の獲法するく一御と本船の同信よ  
一しては古より十日とハ橋橋の由よせしめ十  
一日よあつり目と抱よと一とく肩をらるゝと一  
物よととゆるはこれ産後の獲法よまよ一  
かゝは産後二三日とて血暈血逆の病おれく  
食りゆと漸くよと一血下るゆと漸くよと一

うつ射らるるは橋橋とを腰湯とよして肩を  
よまよ一と一肩をらるゝと一とく肩をらるゝと一  
とけりひらぬとよまよとよまよとよまよと  
そまよとよまよとよまよとよまよとよまよと  
よまよとよまよとよまよとよまよとよまよと  
一とよまよとよまよとよまよとよまよと  
と血暈血逆の病おれし仰外とらじと流り  
おもよとよまよとよまよとよまよとよまよと  
大切よとらひして後日橋橋よとよまよと  
およとよまよとよまよとよまよとよまよと  
と遊学と生ひる教よ一能くおれし

世産婦食治の院

○産婦の病は婦人産後からする先産後血暈を治す  
と合して湯の〜飲〜じ〜一〜須臾〜して〜産婦と用  
て売とを湯とを煮轉め〜一枚とあり〜物〜と  
く食〜と〜は硬〜と用〜る〜ゆ〜ら〜れ〜後白粥と食  
と〜と〜と〜り〜は産婦の血暈と治すと疑  
宗爽の院せんすうを〜それ〜産後さんごの〜中ちゆう記きとして用  
ろ〜一〜薛せつこの院いんは産後さんごの婦人腹脹ふくちやうを治す  
産婦と食としは消化〜の〜と〜熱とを治す  
屢轉〜して産病とを生じ〜と〜い〜ま〜め〜結〜り〜ま〜  
陳自明の院は血を治す〜は〜と〜と〜と〜と〜用

は九

〜はと〜と〜は血けつを治す  
ま〜め〜結〜り〜ま〜ら〜れ〜産後さんごの血暈とを治す  
血けつを治す  
産婦と食としは消化〜の〜と〜熱とを治す  
屢轉〜して産病とを生じ〜と〜い〜ま〜め〜結〜り〜ま〜  
陳自明の院は血を治す〜は〜と〜と〜と〜と〜用

腹のりある湯旺とれしうく滋養とせしころの裡  
あるくこれらつらむらひの病は赤湯と用る付ハ  
と善あびさし中醫の理とあは産後虚  
らむらひの昏暈とれし必赤湯のりさし  
用し或は病家よのりあむらひと用るゆと  
一葛いその産後病とやまらふとたよ栗目の  
食の母は雞子と食せしころのあむらひ  
のこあむらひの雞子の法湯を飲と用んと致せ  
おれら醫師ようしころのいしころ  
○婦人良方よ産後の病はさしころの白粥せかりと  
とせしころの飯食たさしころの肉味と進

と二月の後肉と食とせしころの凡産物の食は白粥  
といふも軟よとあむらひと善あびさしころの  
粥しころのあむらひとあむらひとせしころの  
おれら醫師よと産後の病はさしころの法湯  
の飯と味魚汁と煮て雞卵とつらむらひと酒  
和し赤下とらむらひとこれと用るたより都鄙  
たよしころのゆたの甲むらひの雞子と用るころの  
て赤湯とせしころの醫師とせしころとこれと  
た赤湯とせしころの食せしころの脾胃つらむらひ  
むらひの病はさしころの脾胃虚弱と血微弱とらむ  
人の先びおと食せしころのさしころの病はさし



胃始いしを食くせられし魚ういの味あじは...  
 くわりのあてをめてい味あじは...  
 脈いん滞たいして血ちを腫はれさせし...  
 血ちを腫はれさせし...  
 けり相あ粘ねんして消しょう化くわし...  
 婦にょよあ...  
 かくはら...  
 ぞと國こく俗じやくのあやまり...  
 産う婦にょよ...  
 治ちとらよ白しろ糖とう米まいの...  
 せつりのあまよ...  
 胃いと腸ちやうと...

四神と我をれと春後の瘧疾は用らるる  
 杉皮の如く脾胃の如く年血虚脱の如く  
 椰乾の如く用らるるに依りて二三日に  
 春の如く白粥の如く調治する  
 夏秋の如く白粥の如く調治する  
 冬の如く白粥の如く調治する  
 春の如く白粥の如く調治する  
 夏秋の如く白粥の如く調治する  
 冬の如く白粥の如く調治する  
 春の如く白粥の如く調治する  
 夏秋の如く白粥の如く調治する  
 冬の如く白粥の如く調治する  
 春の如く白粥の如く調治する  
 夏秋の如く白粥の如く調治する  
 冬の如く白粥の如く調治する

是より御まじりしなりし  
 〇新産物は標準とせしむるなり  
 若も年過熱ありて毒ありて本草洞谷に  
 人の元氣を損じ極大の病を起しえんや  
 個晴とて年と損じしとて人々毒を起し  
 酒の如く用てせざるなり  
 新産物の標準とせしむるなり  
 若も年過熱ありて毒ありて本草洞谷に  
 人の元氣を損じ極大の病を起しえんや  
 個晴とて年と損じしとて人々毒を起し  
 酒の如く用てせざるなり

て身を纏りたまへば毒をくひておしりんや新産の  
 物人よはちどあつらんやいそいそはく毒の  
 出そとて産院の潔守とてせつ清くあり平  
 まのあつらんや平目とてととさうこそさる物  
 人産後よはちどこのもむさうよむしめ煙草を  
 せはひらるるや能くおひつこし  
 の産院よは産後飲食とつしむつし生冷水の  
 をさうしの物交博の肉味或は産後粘稠の物れ  
 物あつしは酒或は茶のそらしと食とてはとら  
 儀倍産後ほのぬらんやいそいそ新産の物よ必  
 産茶と産茶のそらしとあつしとて毒をくひつこし

茶のそらと下と茶の服と酒とてはとて新産の物  
 産血とて脱去とて殺生とてえきとて  
 こそは用り付いと害つらうとては酒茶と禁とてわ  
 ぬつらひとるれ一人産後茶粥と食とてはとら  
 めとて四肢麻冷通氷のそらとて死とて  
 と女科準繩よのそらとて能くおひつこし  
 ○新産の物人よは禁とては辛辣のそらとて  
 食也 生冷水のそらとては物 伸つとてはとら  
 産後血の物 産後血の物 胸膈の泥帯とては  
 の食也 産後血の物 産後血の物 菌の物 毒 縛血  
 産後血の物 産後血の物 産後血の物 産後血の物 産後血の物  
 産後血の物 産後血の物 産後血の物 産後血の物 産後血の物







一 齋行の難ハ障障僅生より室よりれ  
 こよ斎〜か〜りてハ胞衣り〜さ〜ゆ〜りの切らりハ  
 こ〜さ〜を〜記〜集〜石〜丸〜境〜境〜丸〜奪〜命〜丹〜也〜神〜也  
 婦が如神準繩ありん〜たり 或ハ清石を奪子の難れ業  
 のて押お〜は〜一〜意〜る〜あ〜る〜なり〜あ〜れ〜る  
 銅器指下〜或ハ醫作指〜は〜或ハ業局〜は〜  
 子〜り〜る〜業〜所〜と〜建〜と〜て〜取〜民〜の〜病〜あり〜と〜こ〜い〜ま〜ま〜あ〜つ〜け〜て  
 業〜と〜つ〜の〜法〜と〜ら〜り〜なり 宗朝繼宗皇孫の討より始〜ら〜り  
 今〜は〜の〜り〜の〜妙〜法〜あり〜齋〜か〜ら〜り〜て〜胞〜衣〜り〜さ〜  
 れ〜る〜産〜母〜の〜病〜傳〜と〜ら〜り〜と〜よ〜あ〜ら〜は〜又〜血〜流〜れ〜て〜胞  
 中〜は〜入〜胞〜血〜の〜と〜あ〜は〜張〜大〜よ〜ら〜り〜て〜公〜胸〜の〜衝〜上〜り







もしもいふことばも入らぬし或は傍の人の中へゆきこ  
してはもうのこももうし血氣うららた虚暈この外  
さうりも忘るそをうし記つてそのまゝに云ふことと  
り同しおたしゆ教むし想して産後二時とて  
内より大なる血氣をうららたれしん安堵とるゆつとさなり  
血暈の血氣を虚す赤しとより攻め胸と痞塞  
とらぬし血暈を痛とらるなりは時の失をおぼえ  
龍丹の神效徴の毒奪命あるゆの款と用く  
とらぬし血暈を痛とらるなりは時の失をおぼえ  
つる或は治療遅とらぬし公とせめし血暈とらるなり  
暴るなりとせめし血暈を痛とらるなりは

急暴の血暈されし醫師も公と用ひて治療と  
るし血暈を痛とらるなりは醫師よめし  
て治療とせしなり  
○馬を飼ふの悦も産後欠伸とするは血暈  
脱の候なりとしり産後欠伸とするは欠伸は  
その時のえきとせしは公とせしは醫師よ  
ゆしゆしと治とせしは清房よせし傍の人欠  
伸とするは必ず産後欠伸も感通して欠  
伸とするは必ず血暈を痛とらるなりは  
○薛しの悦も産後小腹痛とするはた偸し每  
り腹中の中血暈としり産後欠伸も感通して欠



胎中の胎動を促し血脈を養ふに血脈は心臓の中心より生じ、四肢の末梢  
 まで至る。血脈が滞り、血脈が絶たれれば必死の患を生ず。此の時  
 胎動は弱く、或は絶たれる。此の時必死の患を生ず。此の時必死の患を生ず。  
 胎動の弱く、或は絶たれる。此の時必死の患を生ず。此の時必死の患を生ず。  
 胎動の弱く、或は絶たれる。此の時必死の患を生ず。此の時必死の患を生ず。  
 胎動の弱く、或は絶たれる。此の時必死の患を生ず。此の時必死の患を生ず。  
 胎動の弱く、或は絶たれる。此の時必死の患を生ず。此の時必死の患を生ず。  
 胎動の弱く、或は絶たれる。此の時必死の患を生ず。此の時必死の患を生ず。  
 胎動の弱く、或は絶たれる。此の時必死の患を生ず。此の時必死の患を生ず。

産血をれして治さうは薬解と名のいふを  
りしう醫師の尋ふこゝを指さすうして用  
てし郭指申の流は兎抱痛の母の胎中よ  
とより血塊ありまゝにして痛じて産さうよ  
たりの血塊破れ下つて兎抱とたよ出り時じうれ  
るゝととて思て産物産血ありふと  
血塊をこのりて腹痛或は満回とらそくひれ  
の産さう時よ兎抱とてさうさうの血塊  
破れりりて産痛の人多るりさうさう  
れし産後いさ子の醫師と頼て産血と解

して治療とてこの肝要なり  
○産後子腸を収まうさゆりの角一或は陰  
の寒出さうものあり或は陰産の時先母腸を  
控して暖め生れ産後まで収まうさゆりの角  
くいえ産血之して下溜とらるの産さうよか  
用て下よ好らさうなよかかかかかかかか  
研と心弱汲水と加て産母乃の面よ磨けん子腸  
收り入るなり又葛麻子に拾九粒と研て産母  
頭頂よ貼れし腸收りさうさうの血塊よ洗去し  
と女科準繩の義をとり陰門寒出さうよ硫黄  
湯よ方た今醫統と用ひ産血と名のいふ補中益

手湯の升麻防風と倍加して用一と薛己の  
説のみをとり又荊芥藿香桂根皮の煎湯或  
枳壳の湯も白礬の煎湯と必兼用されし即  
腸收の上より着あさるるしん頭公百合乃元  
灸らるるの千壯なれし必あさるるなりと古と醫  
統の載あり

○丹溪の説より婦人産後腰膝の肉より二物あり  
并とのをさるる形ありしもの如二物ありし  
を灸ありして治すといひ丹溪されし灸もこれ  
ありん必灸婦人血弱して下墜きしなりとて  
升麻高麗黃芪と云々料ありてこれとあり

す目のつらき灸後身り末と服らるるの二物あり  
ら陰に銀膏して一声と云々されし陰に  
あつらわし灸の上りそ外帯の上りぬれり  
肉一片膏の灸らるる乾着たりしを妻がよを  
て灸治しめく子腸損しそれけりりわは  
うらひと云々丹溪されしとてこれの腸の灸ら  
よありし即糲粉あり肌肉のぬれらるる陰に人  
し灸也と云々ありし必灸しとて何れ湯とあ  
そらるるよ人灸と加て百餘貼と飲しじ三年此  
のらよ二物ありしと云々これの灸らるる陰  
後よ陰にり痛くあり陰にり肉線して



三石人らあり或は子宮を勝と稱せつゝも  
 してありまよとて破損し胞損して  
 淋病を生し或は小便不禁小便みたりよとて  
 のあり或は子宮を損傷してその  
 猪肝うようんよりあり或は子宮を  
 のありたまは治さしてはるまのそ  
 準繩よりせり今世も産前産後うんぜんうんごの  
 病を治すあり婦人の病を治すあり  
 り遅く救ふありつゝ未だの病を過  
 くおとらまよりの醫術とて治す  
 るべし

⑤ 産後乳汁の脱

⑤ 産婦人胎内うぶいんたいないのあり時、衝任の二經の血脉と胃  
 經の血脉とをこれとて一なるを乳とて  
 血脉と水穀の精華とを乳汁と化して溢  
 れ出を乳とて飲んて生ずるこれ産後自乳の  
 妙なりまよ白とて穀物の化してはるま  
 の乳汁のまよ通せしむるのこゝ目より乳  
 房必やたらる味出するありまよ女  
 して乳房とてやたらけお七歳より女  
 小舎して吸出するありまよ乳  
 口のほして乳を飲むありまよ産後一

耳目ととれん必乳房よ公と付一乳汁を  
そら何のこやうけられ乳房腫熱して骨  
つこを熱するはる多し能く知つてこの  
○陳皮擇り洗よ産婦乳汁通せよゆ一三條あり  
辛魚乾よ一と雍肉一とゆらあり一子魚虚  
弱よ一と酸つとゆらありのあり虚ぼるものハ  
補一ととるものハ附守と一ととるものハ  
通草偏蒼土瓜根のよと一と用一と虚ぼる  
ものハ煉成り猪乳粉猪蹄雞臑魚のよと  
くいと用一ととる

そらくいとれと食へ乳汁出さるのりとし若産婦乳  
汁魚乾とるものハ東壁土壁とゆらありよととる  
一ととる  
○薛之の洗よ産婦乳汁少さるものハとれき血虚弱  
りるはととるよととる脾胃と壯よゆ一乳汁を  
骨血の化じるととるよととる乳ととる下よあり  
てい経とは若産婦の婦人乳汁少さる津液とる  
りなるりよととる乳汁と通せよ兼治法の醫を  
よととるくつととるよととる整作よととる治法  
よととる一併治乳汁通せよ兼と用つととる  
乳汁と通せよととる乳汁と通せよ

産後多〜ハ末と服せしめ〜飲りおろしより  
 産母痛のつ時と末と服せしめ〜飲りおろしより  
 産後多〜ハ末と服せしめ〜飲りおろしより

○婦人良方ハ産後乳汁よのけ〜飲りおろしより  
 の産れ産〜胃と〜飲りおろしより  
 一若乳汁よ〜痛〜飲りおろしより  
 一これと〜飲りおろしより  
 一乳汁よの〜飲りおろしより  
 一〜飲りおろしより

○産後扱書治法ノ説

○産後扱書治法ノ説  
 一〜飲りおろしより



難症ありしつゝを薬とされと治すべし  
徐々甫の院よこれ丹溪の海はつひとつゝ若  
果して善化ありしと書し通して治療とす  
とより素問よも難なることいふを中と治す  
つゝをいふを標と治すとあれし産後諸病なく  
字血脱去の母を丹溪よとつゝ一或産後の中  
外傷を産後諸病の中をいふは治の醫とす  
を門とあれしと書しとつゝの治すとつゝ  
神あり産後十八症と治すとつゝいふがあれ  
薛己八世伝を熱入虚とつゝとつゝ志神あり用  
つゝのつゝを害物一或ハ雞子と用ハ或ハ塩味

新の如産後よ標とつゝの職を血よとつゝ  
或は湯の肉味と用り  
あよ産後のつゝの病と書しとつゝ志神散雞子  
塩味肉味と書し却とつゝ一とつゝあれしとつゝ  
つゝ一とつゝ一とつゝ一とつゝ一とつゝ一とつゝ  
て産後と調りよとつゝ一とつゝ  
○千金のよ産後七日の由血氣のつゝとつゝ  
つゝの薬と書しとつゝ一とつゝ一とつゝ一とつゝ  
て羊肉湯と書しとつゝ一とつゝ一とつゝ一とつゝ  
してえん字充る形體と書しとつゝ一とつゝ一とつゝ  
つゝのつゝのつゝ一とつゝ一とつゝ一とつゝ一とつゝ  
つゝのつゝのつゝ一とつゝ一とつゝ一とつゝ一とつゝ  
つゝのつゝのつゝ一とつゝ一とつゝ一とつゝ一とつゝ  
つゝのつゝのつゝ一とつゝ一とつゝ一とつゝ一とつゝ



起り奉り...  
 御膳...  
 好生...  
 飲食...  
 先...

婦人集草卷下六紙

享保十二歲

丙午正月吉日求之

寺町通松原上町

菊屋七郎兵衛

寺町通佛光寺下町

著屋勘兵衛

靈著軒藏版目錄

官職備考

全部 官位の事と御記の世儀を知り  
七冊 安らむるに書也 三宅帶刀作

節序紀原

全部 元日の御賀齒のりより大歳  
一冊 まで年中これいれを記す 如松作

儒仙武仙

全部 繪ハ狩野も儒と武との聖人賢人  
二冊 此六人ノ像也の上は林道春の讚あり

易學啓蒙圖說

全部 易書と儀禮と論語と孟子と  
一冊 法と擲とを以て法同圖尾田玄古作

翰墨琅函

全部 書物のかさやう此法を記す  
四冊 三山陳翊九彙編

痘疹慈幼津棧

全部 痘疹と療治するに書  
二冊 家の御寶也并原道閑訓点

通俗兩國志

全部 姓ハ岳名ハ龍字ハ騰舉といハる智謀

樊噲伍子胥ヨも綴ラる名將出て宋朝を脱け金の國宅  
大ニ戦ム

仙曲戲草

全部 益トワルセ 癖良クある帯とワル  
二冊 ずーてうとじとくろくーニ味練と

ひとりなすくさせ小カマて天のあをとりつあきくろ強とくろをも  
真神よりぬいぐるかとの率四十八ヶ条と出す

拾玉智惠海

全部 家内日用を寶チたる拾智發の  
二冊 の率どもと出す 藤井政武作

拾玉續智惠海

全部 同もれろと出す  
三冊 同作

拾玉新智惠海

全部 同格と必傳のろともと  
二冊 のろす出す 同作

年中参詣記

小本 并口尺 年中毎月毎日の参詣  
一冊 どのろちこの出がーの目

諸方の祈りの日限 名年ニ日限指のお性す法又ハ  
懐中油も用ひ同尺ニも用ひ丸き物とさすよー

通俗臺灣軍談

全部 大明の皇帝の子孫朱ノ貴  
五冊 智勇兼備りたる名將

出て今此 唐土大流しと録と新入るを唐本と初けて  
俗も通一安く〜む

官位俗訓

全部 官位の世俗をゆ遠へるを心一語人  
四冊 よりさまへあ〜む 遵生軒著述

朝鮮版図

全部 朝鮮の版図と名譽の公率此  
七冊 沖さむきを記す

婦人秀草

全部 婦と求るより懐妊十月此の産後  
六冊 此表生及婦人重花と記 香月牛山著述

西銘講義

全部  
一冊

李退谿先生

醫療羅合

全部

諸家此証方和漢乃妙辭といはば  
十二冊て病門を以て百病を治するにたりす

著

并積

其外

易具

床本

格黃

漆板

五聖人

掛物有

家傳

湧泉

散

り

れ

る

茶

出

し



